



第71号  
令和7年1月5日  
発行者  
綾瀬市身体障害者  
福祉協会

# 謹賀新年

令和七年が始まりました。昨年(令和6年)は元日から「能登半島地震」が発生して不安な年明けになりました。しかし、神奈川県綾瀬市では特に変わりも無く、身障協会も無事に神奈川県、綾瀬市、綾瀬市社会福祉協議会の行事を重ねてきました。

六年度の行事で二月十四日・綾瀬市文化会館と兵庫の「逃げ遅れる人々・東日本大震災」の映画と講演会・シンポジウムが残っています。協会として初めて共催をする講演会ですが、多くの会員や一般市民の方の参加が予定されています。

今年七年度は昨年度に負けず、多くの会員の参加できる行事を考え、実行して行きますので、市内在住で障害をお持ちの方々と、また身障協会に入会されていない方々への声かけを宜しくお願いいたします。

西川和朗



# 微笑

## 『第15回綾瀬市福祉レクリエーション大会とボランテニア連絡協議会との交流会』

令和6年11月9日(土)、TIMURO CLASS 綾瀬市民スポーツセンターの大会室において、社会福祉協議会主催の「第15回福祉レクリエーション大会」が午前中に、また午後からは「ボランテニア連絡協議会との交流会」が開催されました。

当日は秋晴れの気持ちのよい天気です。また体育の空調も若干高めに設定された事もあり快適に競技を楽しむことが出来ました。

午前中の「福祉レクリエーション大会」の開会式では、杜協会長、そして来賓としての橘川市長、市議会議長の挨拶があり、その後軽いエアロビクスでの準備運動が始まりました。

各々障害がある身で、壇上のインストラクターさんの動きに合わせて転ばないように必死です。



競技は「さいころ競争」から始まり、つづいて「ループ輪投げ」、そして「お楽しみ競争」が行われました。今回も高校生ボランテニアさんの手伝いがあり、怪我もなく楽しく運動する事が出来ました。本当に有難うございました。



お昼には美味しいお弁当を頂きながら久しぶりにお会いした仲間との談笑を楽しみました。

午後からの「ボランテニア連絡協議会との交流会」では、最初に綾瀬高校フラダンス部の踊りがあり、そしてソノーレウィンドオーケストラによる楽器演奏では綾瀬でオペラを！の会との一緒の合唱もあり、曲名も「上を向いて歩こう」や「散歩」といった馴染みのある演奏で、曲に合わせて手拍子をしたりして楽しめました。最後のエキシビジョンは綾瀬でオペラを！の会による合唱では「虹」「四季の歌」「紅葉」など一緒に歌える曲が多く、全員参加での「幸せなら手を叩こう」で盛り上がりました。



『あやせ夢アート展』  
今年も障害者週間(12/3~12/9)に合わせて、十二月三日から五日市役所1階の喫茶室で、綾瀬市当事者団体と社会福祉協議及び市内障害者施設の人達の作品によるアート展を開催しました。

令和6年12月  
身体障害者福祉協会  
肢体部 西山

会も減っていますが、こうしてまた皆さんと元氣にお会いして身体を動かすことが出来た事が何よりも嬉しく思っています。いつも社会福祉協議会の皆さんやボランテニアさん達の多くのご協力に感謝します。本当に有難うございました。

また来年も福祉レクリエーション大会と交流会が開催され、元氣に皆さんとお会い出来ることを楽しみにしています。

市の障がい福祉課の啓発チラシもありましたが、開催日が3日間と短いせいか来場者も少なかったです。しかし、障害当事者の方々の作品はどれも素晴らしいもので、来場された方々は皆さんが写真に収めていました。

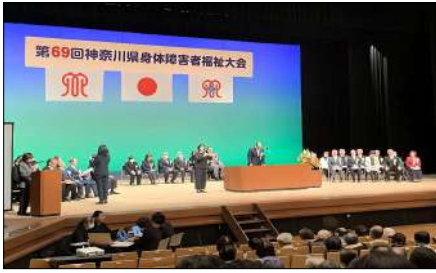
### 『第六十九回 神奈川県 身体障害者福祉大会』

高寄 邦雄

第六十九回の「神奈川県身体障害者福祉大会」が、令和六年十二月十五日（日）に海老名市市会館・大ホールで開催されました。

この福祉大会は、「県内の身体障害者が一堂に会し、障害福祉にかかわる課題を確認しながら、連帯を深め、ともに生きる福祉社会の実現に向けて、大会宣言にかかげる行動を決意し、もって身体障害者の社会参加及び社会福祉の向上の促進を目指すものとす」という目的で行われています。

昨年の相模原市に続いて今年も十二月の開催となりましたが、当日は綾瀬市身障協会からも二十名近くの参加があり、小春日和の穏やかな一日でした。



午前の「第一部」では、内藤県身連会長や橋本副県知事の挨拶があり、開催市の内野海老名市長による歓迎の言葉を頂いた後、神奈川県知事表彰、県身連会長表彰、感謝状などが、今年の受賞者に授与されました。

そして、来賓の祝辞後、受賞者代表の挨拶、肢体・視力障害者の受賞者による体験発表などが行われた後、海老名市身体障害者伸生会の今福会長による「大会宣言」が行われ、午前の部が終了しました。

昼食は配布された美味しいお弁当に舌鼓を打ったり、文化会館内に飾られていたクリスマスツリーの前で集合写真を撮ったりしてお昼休みを楽しみました。

午後からの「第二部」のアトラクションは開催市の海老名郷土芸能文化の「海老名 東柏太鼓」がアトラクションとして披露され、勇壮な太鼓の音が館内に響き渡りました。

最後に次回（令和七年）の開催地が伊勢原市で行われることが発表され、伊勢原市身体障害者福祉協会の早乙女会長から挨拶があり、無事に今年の福祉大会が終了しました。来年は前述しましたように第七十回の「神奈川県身体障害者福祉大会」が伊勢原市で行われる予定ですので、皆さんのご参加をよろしく願います。



### 障害者差別解消相談 「つなぐ窓口」常設化を

福祉新聞 十一月十五日

内閣府が昨年10月から試行事業として実施している障害者差別に関する相談窓口「つなぐ窓口」の実績報告会が四日、衆議院議員会館で開かれた。9月末までの1年間の相談は321件で一定の利用があり、今後さらに障害者差別解消を進めていくには、つなぐ窓口の常設化と、具体的な相談内容とその対応を広く共有して課題を解決していくことが必要だと確認した。

障害者差別解消法が改正され、4月から民間事業者に合理的配慮の提供が義務付けられた一方で、相談窓口は府省庁や自治体などにあり、相談先が分からない「相談の迷子問題」が起きていた。そのため、つなぐ窓口がワンストップで相談を受け付けて府省庁などに適切に取り次ぐ。同日、内閣府が初めて公表した実

績では、321件のうち障害者差別解消法の範囲内の内容は1602件で、府省庁などに取り次ぎが完了した226件、取り次ぎ辞退（相談して納得したなど）したのは106件だった。発生場面は行政、医療福祉、教育学習支援が多かった。相談者は8割が障害者、1割が事業者だった。課題として市町村の体制整備、相談窓口の周知、相談対応の質の向上が挙げられた。

報告を受けて宮路拓馬衆議議員は「より良い社会をつくるための大きなツールにしていきたい」、衛藤晟一参院議員は「窓口がしっかりとないと差別解消につなぐていかない」と話した。

内閣府はつなぐ窓口を継続するため、来年度予算で400万円を要求している。報告会を共催したDPJ日本会議の尾上浩二副議長は「どこに相談したらいいかわからず困っていた切実なニーズにこたえるつなぐ窓口を、ぜひ本事業化してほしい」と求めた。

◆ つなぐ窓口 || 電話 0120・262・701 (午前10時〜午後5時、祝日・年末年始を除く)。

### 『編集後記』

昨年度は、体調を崩して皆さんにご迷惑をお掛けしました。

今年度は体調に気を付けて頑張りますのでよろしく願います。

西川 和朗